



インスピレーションになろう

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：小林 恵一 幹事：菅原 茂秋

地区目標 「ロータリーの原点に戻ろう」 BACK TO BASICS

クラブテーマ 「あなた自身のロータリーを生きる」 ところに奉仕と友情の灯をともしよう

- ◆点鐘：小林 恵一 会長
- ◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
- ◆司会：新藤 幸紀 S.A.A.
- ◆会場：大沼デパート



Yamagata West Rotary

第2822回例会

平成30年9月3日(月)

会長挨拶

小林 恵一 会長



本日のゲストをご紹介致します。小林由佳さんです。昨年7月から1年間、ブラジルへの派遣留学生・親善大使として使命を果たし帰国されております。

ここはホームグラウンドですので気持ちを楽にして、後程ご報告頂ければと思います。

先週1日(土)は、地区クラブ奉仕セミナーが酒田市で開催され海和浩運副幹事と共に出席して参りました。クラブ奉仕とクラブの運営について勉強させて頂きました。具体的内容については機会を捉えお伝えしたいと思います。

さて本日は、来月予定しております茶会について、少しでも理解を深めて頂く目的で、細谷PGより茶道についてお話頂きますが、何分持ち時間が少ないこともありますので、茶会例会をお願いした私からも、前座として開催するに至った経緯と拙い体験談を少し織り交ぜて話をさせて頂きます。

昨日「宝紅庵・清風荘」で茶会がありまして、後学のため事前に下調べをしておこうと家内を連れ出して茶席を体験してきました。こういう席に一人で行きますと作法に疎いものですから、今のところ必ず家内か娘を伴うことにしています。体験して見ますと、それは実に細やかな作法やルーティンがありまして、奥が深くある意味そこは小宇宙を連想させるような、大変興味深い世界であります。

「抹茶」は、臨済宗を日本に伝えた禅僧・栄西が12世紀に紹介したと、京都妙心寺(菩提寺が臨済宗なものですから)で伺った記憶があります。無駄のない美しい動きでお茶を点てる、お茶は動く禅だという話を伺いました。

わび茶を大成させた千利休は、誰しもご存知だと思います。狭い二三畳の茶室で、身分が高い人でも身がかがめねば中には入れないほど小さい「躰口」(にじりぐち)を設えたり、茶道具を自ら考案しいびつな形の「楽茶碗」を職人に作らせ「濃茶」の回し飲みを始めたりと、凡そ現代の「茶事」は、利休の茶会が元祖といわれます。

亭主は入念に準備し自ら点てた抹茶で客をもてなし、客は、亭主が選んだ掛け軸や茶碗なども鑑賞する。茶の湯は礼儀作法や道徳を身に着けられるとして、明治以降は女子教育や花嫁修業に取り入れられていました。現在は、むしろ文化的な側面の方に光が当たり、自分が楽しむため始める人が増えているようです。

独服といって、自分の為だけに茶を点てる人もいます。気に入った茶碗を用意して、丁寧な動作を心掛け、抹茶を点て背筋を正して飲む。日常から切り離されて、自分を見つめ

られる。自分に丁寧に接する心が他人をもてなす第一歩に繋がるといことのように。個人主義の行き着く世界を見るようでちょっと寂しい気がしないでもありません。

抹茶を点てて客をもてなす「茶の湯」は、棗(なつめ)などに施された伝統工芸や茶碗、掛け軸などの美術、食や作法も含めた総合芸術ともいわれます。

お茶の文化には、日本人が大切にしてきた価値観が凝縮されている。一期一会や季節を感じる心を大切にするなど、お茶から学ぶ「心の持ち方」や先人が美しいと考えたものが連続と引き継がれています。

詳細につきましては、細谷先生の方から説明があると思いますので、ご清聴頂きますようお願い致します。

茶会が開催される来月中旬は、多分清風荘の庭も紅葉が見頃となることでしょう。是非、日本の伝統文化に触れる茶会をお楽しみ頂きたいと思ひます。

委員会報告

社会奉仕委員会

長岡 勲 副委員長

先週末、お知らせで回させてもらいましたが、29日行われまして、初めての試みの、こちらから行って芋煮会をするということで、今回は石巻の蛇田地区、復興団地へ行かせてもらうことになりました。

その自治会の方々と何回も調整させて頂き、一応、当日あちらではコミュニケーションを図るために、清掃活動、それから広場での音楽会、抽選会などのイベントを行う予定だそうです。その中に芋煮会も1つのイベントとして入れていただくということになりました。マックスの参加者が300人、1番多くて300人程度になるということだったんで、こちらのほうも相当な人数が必要かなと思っておりますので、ぜひスケジュールを合わせていただいて、ご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

広報雑誌委員会

市川 秀徳 委員

皆様のほうに配布されております、オレンジ色の「ロータリーの友」9月号で、ページ数で言いますと68ページ、縦書きですと17ページに、当クラブの佐藤章夫さんの投稿が掲載されております。タイトルは「観音堂」、財産区長として地元の神社の維持管理をされてる佐藤さんの思いが綴られておりますので、ぜひ、皆様お読みいただければと思います。

親睦・家族委員会

多田 悦巳 委員

9月の記念日です。奥様と会員の誕生日です。会員の方が8名、奥様が13名。おめでとうございます。

帰国報告会

2017～2018年度青少年交換留学生

小林 由佳さん



西ロータリークラブの皆さん、こんにちは。1年間の留学を終えて、無事に帰国しました。私が1年間暮らしていた町は、「クリチバ」という町です。山形の人口よりも7万人多くて、面積も倍以上あります。文化的で治安が良く、とても住みやすい街でした。去年から山形に留学に来ていたネルソン君もこの街に住んでいます。

私が空港に着いたときは、1番目のホストファミリーの方とホストロータリークラブの方、昨年まで山形に留学に来ていたパウロ君、みんなで出迎えてくれました。この5つの家族で私は1年間、生活をしました。1番目の家族ではポルトガル語が全然分からなくて、家族も英語が通じなかったの、会話があまりできなかったんで、部屋にいる時間も多くて、言葉が通じないのはとても大変なんだな、ということを実感しました。

2番目の家族は、去年から山形に留学に来ていたネルソン君の家族です。私も少しずつ、ポルトガル語に慣れてきて、この家族はキューバから来た家族だったので、みんなスペイン語しか喋れなかったの、少しスペイン語も聞き取れるようになりました。

3番目の家族は、2歳年上のお姉さんがいて、年が近かったの、本当の姉妹のように仲良くなりました。お母さんが物事をはっきり言う性格の人だったので、「勉強しろよ」とかたくさん怒られたりもしたんですけど、その中でたくさん愛を感じることができました。私が日本に帰ってきた今でも毎日のようにメッセージを送ってきてくれます。

4番目の家族はお母さんが歯医者さんの方で、とても忙しい人でした。ブラジルでは、昼食は家族みんなで揃って食べるという習慣がありました。なので、昼はみんなで学校が終わってからレストランで食べました。朝にはご飯はなく、夜ご飯もパンとかマクドナルドのハンバーガー、そんな感じでした。

5番目最後の家族では、お父さんとお母さんどちらもロータリアンの方でした。とても家族を大切に作る家族で、朝、昼、晩、毎晩毎食、食事を家族でとりました。このときは、私もポルトガル語ができるようになっていたので、一緒に買い物に行ったり、家族と冗談を言いながら楽しく会話をたくさんすることができました。

私がお父さんとお母さんと買い物に行っている様子があるの、街の風景と私のポルトガル語を聞きながらご覧ください。

この動画の中に出てくるお店の方は日系人でした。クリチバにはたくさんの日系人がいました。こんな地球の裏側、こんなにたくさん日系人がいることに最初はとてもびっくりしました。これからも日系、日本とブラジルのつながりを歴史の面からもたくさん勉強していきたいと思います。

次は私の学校についてです。ブラジルの学校は朝7時半から始まるので、朝起きるのがとても大変でした。でも、授業が終わるのが昼の12時半で、学校が終わった後に家族みんな揃って昼食をとりました。

クラスの友達も、一生懸命ポルトガル語を教えてくれたり、常に私を笑顔にしてくれた大切な友達です。日本の文化にもとても興味を持ってくれて、学校に梅干しと折り紙を持って行ったときには、「これは本当に食べ物なのか？」と質問をされました。折り紙は鶴とかいろんな動物の折り方を教えて、とても喜んでくれました。

これが地区にいた留学生50人です。いろんな国から留学生が集まっていて、アジアの人はやっぱり控えめだなと思いました。ヨーロッパとか他の国から来た人は、とても自己主張が言えて、私のコミュニケーション力も伸びたと思います。

親善大使として行ったことは、ブラジルの独立記念日。7月7日

パレードに参加してきました。あとクリチバにいる私を含めた3人の留学生と天ぷらと卵焼きを作り、ブラジル人に紹介してきました。

学校にも4カ所行って、日本の文化、日本の学校とブラジルの学校の違いや感じたこと、日本の言語、日本の食べ物などについて紹介しました。「みんな日本人は毎日、寿司を食べているのか?」「どんな音楽、日本人は聴くのか?」など、たくさん質問してくれてとても楽しかったです。

ロータリーのビッグトリップに参加しました。ビッグトリップではアマゾン川に10日間。イグアスの滝に4日間行ってきました。アマゾンでは、先住民の家に行って、実際に食べているもの、生活の仕方を見せてもらったり、日本では経験できないアナコンダを首に巻いたり、ワニを触ったり、ナマケモノを触ったり、ピラニアを釣ったり、ピンクドルフィンと一緒に泳いできました。イグアスの滝は、世界で1番大きな滝と言われる程あって、水の迫力はとても素晴らしかったです。

留学を通して学んだこと。英語は元々話せたんですけど、それに加えてポルトガル語、スペイン語もだいたい聞き取れるようになりました。ブラジル人は本当に家族を大切にしている、私ももっと大切にしようと思いました。また、以前は新しい人と会話をしたりできなかったんですけど、留学生とたくさん話しているうちに、コミュニケーション能力がつき、誰とでも話せるようになったと自分は思っています。

私は英語と日本語、ポルトガル語、そして、お母さんの影響で韓国語も話せます。4カ国語を活かして将来に活かしたいと思っています。

最後に、皆さんのおかげで本当に貴重な体験ができました。この留学で学んだ言語と経験を活かして、将来、社会に貢献できるようにこれから一層頑張っていきたいと思います。

「茶道の歴史・作法について」

バスタガバナー

細谷 伸夫 会員



私はここへ来て座学、お茶なんていうと、過去ばかり見るような人間でございまして、だけど、こういうグローバル化したときには、やはり日本人であることをきっちりとした特長をもっていかないとまずいもんですから、茶道(さどう)、茶道(ちゃどう)などを覚えていただければと思います。

10月13日に実際、宝紅庵でお茶のお茶会じゃないんですけども、飲み方や席の入り方などをやります。その予行演習、予備知識といたしまして今日、前座として座学ということでやらせていただきました。

多いのが「さどう」という人が非常に多いので、私もときどき「さどう」と言っちゃうんですけども、本来的には「ちゃどう」と読むんだそうです。お茶の道ということで「ちゃの道」だから「ちゃどう」だろう、「さの道」じゃないんだと。「さどう」と言いますと、茶がかしらと書いてある道(どう)の茶道(さどう)。これはいわゆる茶の道って、これも書いて「さどう」と読ませて、これは茶坊主のことだということなんです。これは主に大名とかに茶の湯を司る、お茶を出したり、点前をしたりして客をもてなす係の人という意味で、これでは違うんだという意味で「ちゃどう」というふうに読ませているとのことです。

それから、茶道(ちゃどう)の三面性ってということで、普通茶道(ちゃどう)と言うと、人によっては非常に堅苦しくて嫌なという考えの方。それから華やかな、遊びふうなところとか。それから、芸術的な茶碗とか、工芸品等の面を強調する方ということもあって、このすべてそれは茶道(ちゃどう)の中の一面を持つてるんだってことなんです。これを覚えていただきたい。だから、この3つの面というのは、3番目の人間形成の道ということ。これ1つでも欠けると、茶道(ちゃどう)とは言わないだろうということで、ぜ

ひこの 3つの面があるんだということを覚えていただければと思います。

歴史に入りますけども、お茶は紀元前には中国の南西地域、西南地域にあったんだろうと言われておりますけども、インドから僧が持ってきたという考え方もありまして、その辺よく分からないみたいです。文献上初めて表れたのが、168年のころに栽培されて食していた、食べていたとあります。300年頃になりますとやっと今の形の、茶を粉にして、竹のささら、今の茶筌みたいなもので泡を立てて飲む泡立て茶というものがまずできたということです。

そして次、唐の時代。500年頃になりますと、いわゆる托鉢僧(たくはつそう)というものが地方を回って茶葉を固めて丸くしてドーナツみたいな形にして、穴に紐を通してぶら下げて持っていたということで、固形茶というのを持って行脚し、そして茶の文化と仏教を一緒に広めていったということです。当時は托鉢僧(たくはつそう)というのはまさに文化の媒介者でありまして、特に文化が地方に広まる功績を持っていたということです。

その 1人の中に達磨大師という禅僧、禅宗の祖でありますこの人もやはり同じように茶というものを説いて、お茶の葉っぱには道を成すという修行力があって、法悦を得るといふに説いたものですから、ほかの僧侶たちが心の準備として好ましいということで非常にお茶を大切にしたいということがございます。ここでお茶と僧侶の結びつきというものができ上がったのではないかと見えています。

次に托鉢僧(たくはつそう)の影響で全国に広まったということで国民的飲み物として定着して、禅僧の中ではお茶の飲み方という礼法ができました。その礼法が下に書いてある茶(さ)の礼、これは「されい」と読む。「ちゃれい」と読みたいところですけども、これだけは「されい」と読む。なぜかと言うと、「ちゃれい」とは韓国にあるお茶の飲み方と違うんだという意味で「されい」と読むということです。これはお茶の、茶道(さどう)の原型と言われ、今も我々では「されい」という様式のお茶会をやることがございます。

これは禅座一堂に会して同じものを食べて同じ茶を喫するという儀式であって、心を 1つにする和合の意味を持つんだということ、これはキリスト教における神人共食という、神と人間が共に食べるという考えと全く同じなんです。全然この当時キリストに関係なかったんですが、人間やはり同じことを考えるんだなということでもあります。

次に唐の時代になりまして、達磨さんがもういないということでもありますけども、これは禅僧では祖でございまして、お茶を飲む時に達磨像を正面に掛けて、掛軸みたいに掛けて、その前に点心というの、食べ物ですね、お茶を注いで、そして下ろしてみんなで食べたり、飲んだりしたということです。それでここに、床に軸を掛けることの始まりが起きたんだというふうに考えられております。

当初は仏さんを飾ったんではありますけども、仏さんにお茶を、仏画をその代わりに、仏さんがいない時には仏画を掛けた。仏画がない時には高僧の像を掛けて、高僧がいない時には高僧の書を掛けるということで、今のお茶会でも高僧の書というものを掛けているのがこの辺から出てきたんだろうというふうに思っております。

その頃、日本ではちょうど平安時代になります。日本にとって仏教の伝来であります、最初是最澄と空海の 2人が持ってきた、と。それで栄西さんの話、会長さんが出ましたけど、あれが教科書に載ってる 1番最初のお茶だということが言われてますけども、本当は最初空海が持ってきた、と。ただ、あまり広まらなかったということなんです。貴族の間の薬として飲まれていたということでもあります。

その後、鎌倉時代の前期に入りますと、明菴栄西がいよいよ禅と茶というもの、喫茶(きっちゃ)の方法というものを持ち込みまして、「禅は心の救済、茶は健康回復」ということで、茶を植えたということでもあります。それで『喫茶養生記』なんかにも書いておりまして、持ってきたお茶は今の長崎に平戸の千光寺というところ、佐賀県の脊振山という霊仙寺、今はなく霊仙寺跡に今も残っているということでもあります。

それから明恵上人に茶の種を送って梶尾山と宇治に種を蒔いた、

と。これが日本におけるほんとの茶なんだということで、宇治茶を本茶と呼んでおりまして、その他でできたお茶は非茶と呼んで、飲み比べていたということでもあります。

同じ頃の 1210年、鴨長明が当時京都の方丈という 3メートル四方の草庵をすみかといまして『発心集』や『方丈記』にも書いたんでありますけども、芸術に没頭することによって、人は悟りの境地に入ることができるということで、自己恐悦、宗教心覚醒というようなことを説いたということ。これが鴨長明 4畳半の考えと、方丈が 4畳半ということの教えと結びついたことにつながっていくと思います。

鎌倉時代から室町時代になりますと、かなり安定して豊かな社会になり、公家も武家も農民の間にもお茶が広まりまして、当時の南大門にはお茶屋さんができたというふうに言われております。ここでは闘茶と、お茶で争う、闘うという闘茶というのが流行いたしました、これは先ほど出ました本茶と非茶を飲み分ける、と。そして賭けをするというふうなことであります。そして賭けて儲けようということです。ただこれ、かなりエスカレートいたしまして、武士も入って兜全部賭けるとか、ちょっと世の中が乱れてきたというふうに言われております。

一方、安定した社会の中で連歌会と茶寄合というのは一緒に行われたようではありますが、ここで室町文化というのが広がって、ここに経済的に豊かな上流武士やそれから貴族たちが中国から唐物という高価な美術品を輸入しましてそれを飾って見せた、と。その中にお茶を出してる。この時のお茶は書院の茶という広い部屋であります。広い部屋で作って、18畳の部屋が主に基本として作られておりまして、そこでお茶を、隣室でお茶を点てて飲ませたということでもあります。

この美術品の品揃えとか装飾を担当するのが同朋衆という、能阿弥とか世阿弥とか相阿弥とかいう同朋衆というのが、この方が作ったと言われてます。つまり九間という三間四方の 18畳の部屋、と。それで、夢窓国師が当時いまして、この辺に台子というお茶の基本的な棚、これを取り入れて本格的なお茶会をやってきた、と。ただしこの時代の喫茶(きっちゃほう)はいわゆる茶の湯と呼ばれていたということでもあります。

次に、応仁・文明の乱が起こりまして、国土が荒れて精神的にも経済的にも大変な時代が来たというようなことで、このお茶が心の安らぎを求めると変わってきたということでもあります。そこに茶と禅との結びつきというのが出てきました。それで、どうしてお茶が結びつくかということ、お茶というのは自利・利他の円満の菩薩行であると言われております。ここはロータリーの利己と利他の調和ということとまったく同じことでもあります。それが仏教と結びついた。人間形成の道であることも禅と一緒にある、と。

それから美の茶というのは、侘びの茶というものが禅の理念、芸術というか美の理念と一致したということで、そこで茶と禅が結びついたということでもあります。

これを具体的に表したのがいわゆる和敬清寂ということでもあります。和敬というのが人の道を作るということでもあります。ここにきて茶の道というのが、茶の湯というのが茶道(ちゃどう)という形の根本的なものになったということでもあります。あと三昧というようなことがありまして、無の境地に非常に似て、何も考えないというんじゃないでなんでもできるということが一緒にあります。

それで、こちらの芽生えというのは村田珠光(その後大徳寺の禅僧)が作り始めて、茶の文化が信仰と含めて武野紹鷗が次に来て侘びの形を作ったということです。それで、この村田、紹鷗の侘茶を表したのが「見わたせば花も紅葉もなかりけり 浦のたまの秋の夕暮」と言われています。

次に、千利休ということ。紹鷗(じょうおう) 4畳半の茶室を完成したということと、仄暗さを良しとしたということで、それでもまだ 6畳を好んでいたのが昔の 4畳半と言われてた、と。

次が茶道(ちゃどう)の完成として千利休が侘茶を完成させた。先ほどあったように 3畳、2畳、1畳の小間を作った。それと同時に茶碗も作り始めたということです。やはり何も無いようなところに本当の美があるんだというようなこと、これが侘茶なんだ、と。冬景色の中にもいまだ見えない春の息吹こそ美しいという精神を持ちなさいということで侘びを言った、と。

千利休の侘びの意味というのが、この和歌にある。「花をのみ待つらん人に山里のゆきまの草の春を見せばや」これが利休の侘び

である一期一会を説いた。

それで、ここに台目という小間の横に 1 畳の部屋を作って、そこでお点前をしたという。それが宝紅庵にある小間がちょうどですが、要は道具を見せるんじゃないと、自分のための道具なんだということで、お客さんに見せないでお点前をするという形であります。

その後は利休の茶というのは孫の宗旦に引き継がれ、宗旦は乞食宗旦と呼ばれるほど侘びに徹したんです。その孫たちの宗旦の子が武者小路・裏・表というのも現在の千家を作った。

江戸の中期、後期になりますと、大名・公家もお茶を盛んにするようになって、だんだん小間から広間へと華やかな方向へと広がっていった。そこに現れたのが松平不昧とか井伊直弼がお茶人として名を馳せたわけでありまして。その後はもう社会的不安でお茶は衰退したということでありまして。

明治に入りますと、完全に大名・家臣双方間みな崩壊し、それから文明開化ということであまり日本の文化を顧みないということによって衰退の一途をたどったということです。そこで新しい茶道(ちゃどう)の勃興ということで、田中仙樵(大日本茶道学会の創立者)が、利休の茶道(ちゃどう)に立ち返ろうと、家元制をなくしましょうと。いわゆる流儀者、それから民主主義社会なんで、大名や貴族のためだけじゃなくて国民のための茶道(ちゃどう)をしようということで、新しいものを作ったわけです。

それに前後いたしまして、益田鈍翁という三井財閥を支えた実業家がお茶人であるということで、これが今山形の鈍翁茶会のお茶人の方でございます。それから新しく立礼式といって、椅子とテーブルの茶会をしたということでありまして。

抹茶法としては、濃茶と薄茶というのがあります。濃茶というのは泡がなくてドロツとした、練った茶であります。薄茶というのは今皆さんが飲んでる泡の立つ茶です。これも 10月の時に経験していただきたいと思えます。お菓子は練り菓子という普通のお菓子です。あと干菓子というものを使います。

茶室には歴史的に見た広間と小間と立礼式茶室があって、広間というのは 8畳以上の茶室、小間は 4畳半以下の茶室、この絵は 4畳半の茶室の入口の絵でありますけど、一番右の下のところはにじり口、あそこから入るということです。そして床を拝見して、にじり口は人間みな平等、どんな偉い人でも頭を下げて入りなさいということと刀を差して入れないということで、刀は必ず外に刀掛けというのを用意してそこに刀を置いてから入ったということで、武士といえども刀を持たずということのために作ったことがあると思えます。

席入りの順番は寄付というところで、玄関入りますと小さな部屋があって、ここで旅の装束を整えて、足袋を履き替えて、白湯が出る。「喉乾いたでしょう」ということで白湯が出るがあります。その次に手水を使って、手水鉢で手と口をすすぎます。これ、今もこれが続いております。お稽古などに来た時には必ず手を洗って口をすすいで靴下を替えてからお稽古場に入るということになります。それから席入れするということでありまして。

これは小間の席次ですけども、右下がにじり口で、そこからまっすぐ座っていただいて、まっすぐ床に行きます。そして床を拝見します。なぜ床に行くかというと、先ほど話したように床というのは仏とか高僧の絵を描いて、ここが 1番偉い人がいるとことと、茶室を支配する人なんだというようなことで、ここにまっすぐあいきつに行くということです。

それから戻ってきて、左上になります。お茶道具が飾ってあります。これを拝見して、そして戻ってきて、Dというところに戻ってきてそこで仮に座る。それで全員入ったら E というところに戻るといふことでもあります。

次の小間、これは広間でありまして。入口に座って入り、床に入る。

そして床の 1つ手前、1番前の畳を空けてあります。これは貴人畳といひまして、貴人しか座らない、普通の人座らないということで、手前で座って床を眺める。道具を見て、仮座敷に入って、そしてみんな入ったら E というところの客席に行く。

もう 1つ、F というのがありますけども、これはおおよそで人が多い時はそこから座っても構いませんということでもあります。最後に茶の飲み方、持って回して飲んで拭いて、また戻して、はいごちそうさま。これも当日やります。

そんな形で今度 10月 13日、お茶を体験していただければと思います。

幹事報告

菅原 茂秋 幹事

●今月のロータリーレートは、先月と変わらず1ドル112円となっております。

●年次計画書と報告書のほうができ上がってまいりましたので、これレターボックスのほうに入れておりますので、お帰りの際にお持ちいただければと思います。

●来週ガバナー公式訪問になります。100%例会を目標としておりますので、メイク、もしくは出席のほどをよろしくお願いを申し上げます。

ニコニコBOX

戸田佳瑞さん／8/19(日)に石巻の大橋仮設住宅集会所で開催された「んめえもん祭」にて山形芋煮のお手伝いをしてきました。西ロータリーメンバーである遠藤正明さんが、東日本大震災災害復興の為に毎年、芋煮を準備して、お振舞いをしており、その気持ちに賛同し息子と二人で参加した次第です。石巻の皆さんの笑顔と早く町が復興する事を願いつつ息子と2人分ニコニコします。

遠藤栄次郎さん／市民ゴルフ大会老人の部準優勝。8月26日(日)の雨の中、2ヶ月ぶりで蔵王でのゴルフでたまたまハンデキャップにめぐまれて入賞しました。21年市民ゴルフに出席しているのですが初めてのことで。嬉しいことです!!

会長・幹事／小林由佳さん長期間の留学研修から無事元気に帰国された事うれしく思います。多くの経験をこれからの人生に生かしていただければと期待します。

半田 稔さん／交換留学生の小林由佳さんが無事帰国し、例会に来ていただきましたので。

前青少年委員長・佐藤英一さん、現青少年委員長・海和将浩さん／青少年交換留学生の小林由佳さんが7月無事帰国しました。国際親善を深める「親善大使」として今後の活やくを期待します。

飯田喬之さん／陶芸作品が県展入選。昨年に続いて入選したのでニコニコします。題は「ゴビの旅人」です。美術館入館者数も年々減少しているそうです。県展は 18 日迄です。是非お出かけ下さい。

武田元裕さん／春よりかかっておりました旧山寺ホテルのトイレ改修が無事終了し、このたび再オープン致しました。「レトロ」な「かわいい」トイレと評判です。どなたでも使っていただけますので、是非お立ち寄り下さい。併せて、10/2 までの1ヶ月間、カナダ・トロント在住の若手画家「武谷大介」君の油絵個展を開催中。ぜひよろしくお願ひ致します。

<本日出席・修正出席>

	会員総数	出席会員数		会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日出席 (9/3)	98名	60名	修正出席 (8/6)	98名	85名	83名	97.65%
メイクアップされた会員	(山形南) 酒井 啓孝、浦山 潔、松原 洋、石井 雅浩、武田 秀和、大城 誠司、晋道 純一 (山形中央) 堀田 稔、酒井 啓孝、伊藤 歩、高橋 勝治、石井 雅浩、佐藤 吉博、武田 秀和、松原 洋、大城 誠司、安部 弘行、武田 良和、清野 伸昭、長澤 裕二、晋道 純一						